

小学校

平成 16 年 度

教育研究員研究報告書

社 会

東京都教職員研修センター

目 次

全体研究主題について		
1	全体研究主題	1
2	全体研究主題設定の理由	1
中学年分科会		
1	中学年分科会主題設定の理由	2
2	研究の仮説	2
3	研究構想図	3
4	研究の内容	4
	(1) 教材の選定・作成	
	(2) 教材の活用の手だての工夫	
	(3) 個に応じた指導	
5	実践事例	6
	(1) 単元名	
	(2) 教材構造図	
	(3) 教材活用シート	
	(4) 指導計画及び評価計画	
	(5) 考察	
6	研究のまとめ	1 2
	(1) 研究の成果	
	(2) 研究の課題	
	(3) 今後の方向性	
高学年分科会		
1	高学年分科会主題設定の理由	1 3
2	研究の仮説	1 3
3	研究構想図	1 4
4	研究の内容	1 5
	(1) 「考える力」を育てるための教材分析シートの作成	
	(2) 「考える力」を育てるための「個に応じた指導計画」の作成	
	(3) 意見交流の場の設定	
5	実践事例	1 9
	(1) 小単元名	
	(2) 小単元の目標	
	(3) 「考える力」を育てるための教材分析シート	
	(4) 「考える力」を育てるための「個に応じた指導計画」	
	(5) 考察	
6	研究のまとめ	2 3
	(1) 研究の成果	
	(2) 研究の課題	
	(3) 今後の方向性	
全体研究のまとめ		
	1 研究の成果	2 4
	2 研究の課題	
	3 今後の方向性	

全体研究主題について

1 全体研究主題

児童一人一人の考える力を育成する指導の工夫

2 全体研究主題設定の理由

「小学校学習指導要領解説 社会編」にある「小学校の社会科は、社会生活を広い視野からとらえ総合的に理解することを通して、公民的資質の基礎を養う…」ためには、体験的な学習や問題解決的な学習など、児童の主体的な学習を一層重視することが大切である。また、「自ら学び、自ら考えるためには、児童が社会的事象に関心をもって進んでかかわり、それらの意味や働きを多面的に考えるとともに、社会的事象を公正に考えたり判断したりできるようにすること」が一層求められている。

しかし、これまでの実践から、児童は社会的事象を調べたり表現したりすることには意欲的であるが、社会的事象の意味について考えることは苦手であるという様子が見えられた。その理由の一つとして、「考える」という活動が児童にとって大変難しいということが挙げられる。

「考える」ためには社会的事象に対するしっかりとした認識が必要である。言葉だけを覚えてもその事象の意味について考えを深めることはできない。

また、教師にとっても、社会的事象の意味を考えさせる指導を意図的に行うことは大変難しく、具体的に何をどうすればよいのかが分からずに学習を進めてしまうこともあったのではないかと考えた。

このような実態から、今、社会科学習においては、意図的に「考える」活動を組み入れた指導の工夫をすることが本研究部会では大切であると考えた。また、平成15年12月に学習指導要領の一部改正により、「個に応じた指導の一層の充実」が示された。特に社会科では、「児童の興味・関心に応じた課題学習」、「補充的な学習や発展的な学習を取り入れること」を重視し、学習活動の改善を進めていく必要があると考えた。

今年度は、昨年度の研究成果と課題、児童の実態や社会的要請等を踏まえ、一人一人の児童が、社会的事象の意味について「考える力」をつけていくための指導の工夫について取り上げることにした。そして、「考える力」は、社会的事象を立場や価値観、いろいろな地域など、多面的に考える経験を積み重ねることで育成することができると考えた。

これらの力を付けさせるための指導の工夫として、教材の選定・作成と活用を中心に中学年、高学年の分科会で研究を深めることとした。具体的には、中学年分科会では、「地域の社会的事象の特色や相互の関連などについて、一人一人に考える力を育てる」指導の工夫、高学年分科会では、「一人一人の児童が社会的事象の意味を考えることができる」指導の工夫を研究していくことで、上記研究主題にある、児童の「考える力」を育成することができるのではないかと考えた。

中学年分科会

中学年分科会研究主題

地域の社会的事象の特色や相互の関連などについて、 一人一人に考える力を育てるための指導の工夫

1 中学年分科会 主題設定の理由

学習指導要領の第3学年及び第4学年の目標に、「地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力を育てる」ことが示されている。中学年の社会科では、地域の社会的事象を取り上げ、その特色や関連について考えることが大切である。しかし、児童は調べる活動には意欲的だが、「考える」活動には、意欲的に取り組みにくいという実態がある。この背景には、教師が「考える」ことを明確にせず学習を進め、まとめさせることで満足してしまうという現状があるからだと考える。児童に調べた後に何をどのように考えさせればよいのか、その方向性と学習活動がはっきりと分かることが大切である。そのために、まず児童の「考える」活動がどのような具体的活動であるかを明確にした。

【考える方向性】

- (1)自分とのつながりを考える。
- (2)社会的な意味を考える。
- (3)よりよい社会の在り方を考える。

【考える具体的活動】

複数の社会的事象を比較する。
複数の社会的事象を関連づける。
社会的事象について疑問をもつ。
社会的事象の理由を分析する。
考えを吟味・検討する。
社会的事象の特色や相互の関連などを総合的にとらえる。
社会的事象の特色や相互の関連などを多面的にとらえる。
価値選択・意志決定をする。

この「考える具体的活動」を学習の様々な場面で積み重ねていくことで、考える力を育てることができるのではないかと考えた。そのためには、考える活動につなげていくための「教材」が必要になる。中学年分科会では、学習活動の中で子どもが考えるヒントが含まれる素材を「教材」ととらえた。つまり、写真・実物・模型・グラフなどの資料、ワークシートに書かせた子どもの文章や図表、見学に出かけた商店そのものや、店員の話なども「教材」となると考えた。

一方、中学年の児童にとって「考える」ための材料となる生活経験や既習の学習内容の理解には個人による違いがある。そのため「考える」内容の深まりにも違いが見られ、子ども一人一人の学習状況や特性に応じた学習指導、つまり「個に応じた指導」が大切であると考えた。

以上のことから、単元の中で考えさせたい内容と考えが深まった子どもの姿を具体的に明らかにし、一人一人に考える力を育てることを目指して、上記の研究主題を設定した。

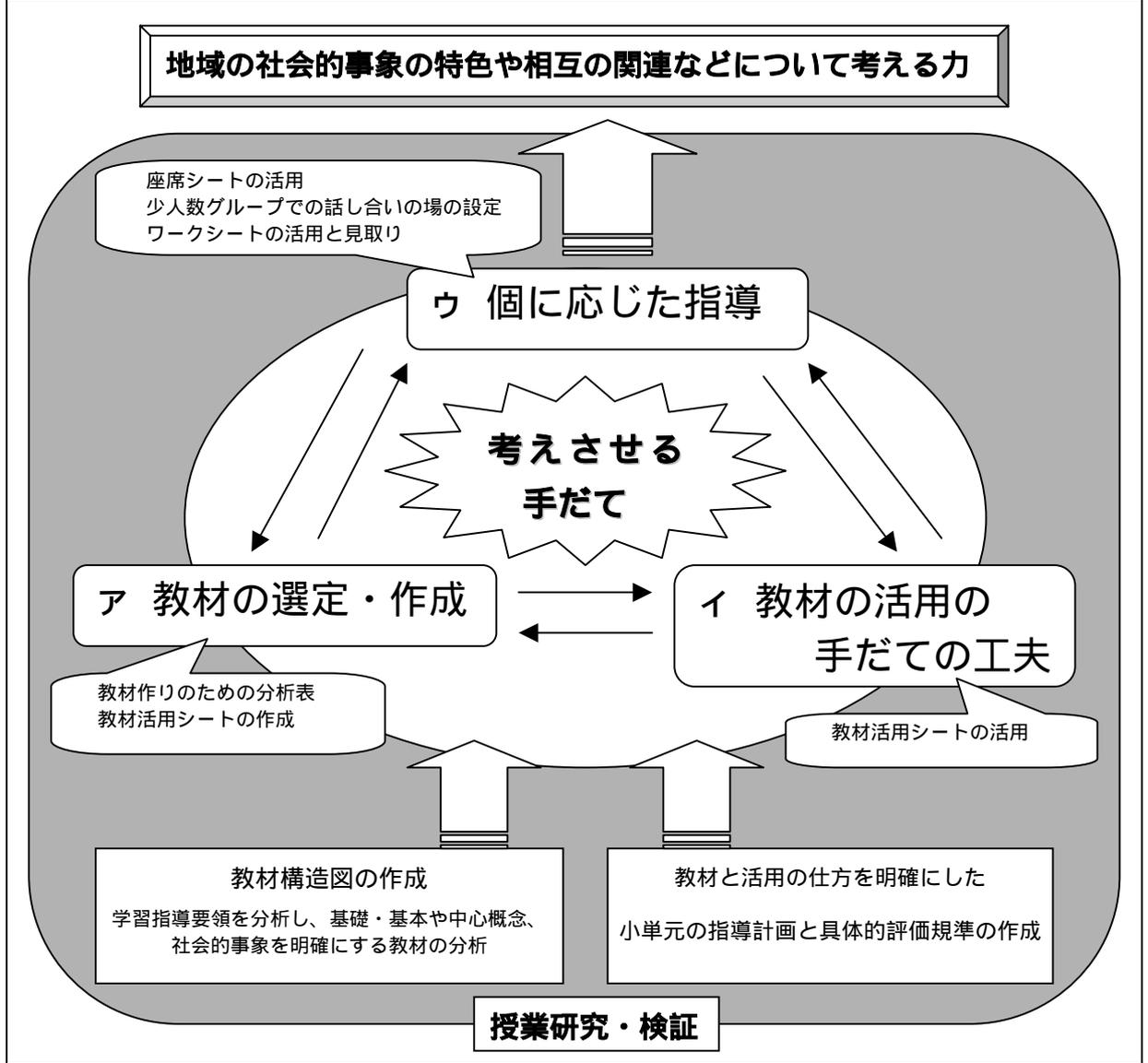
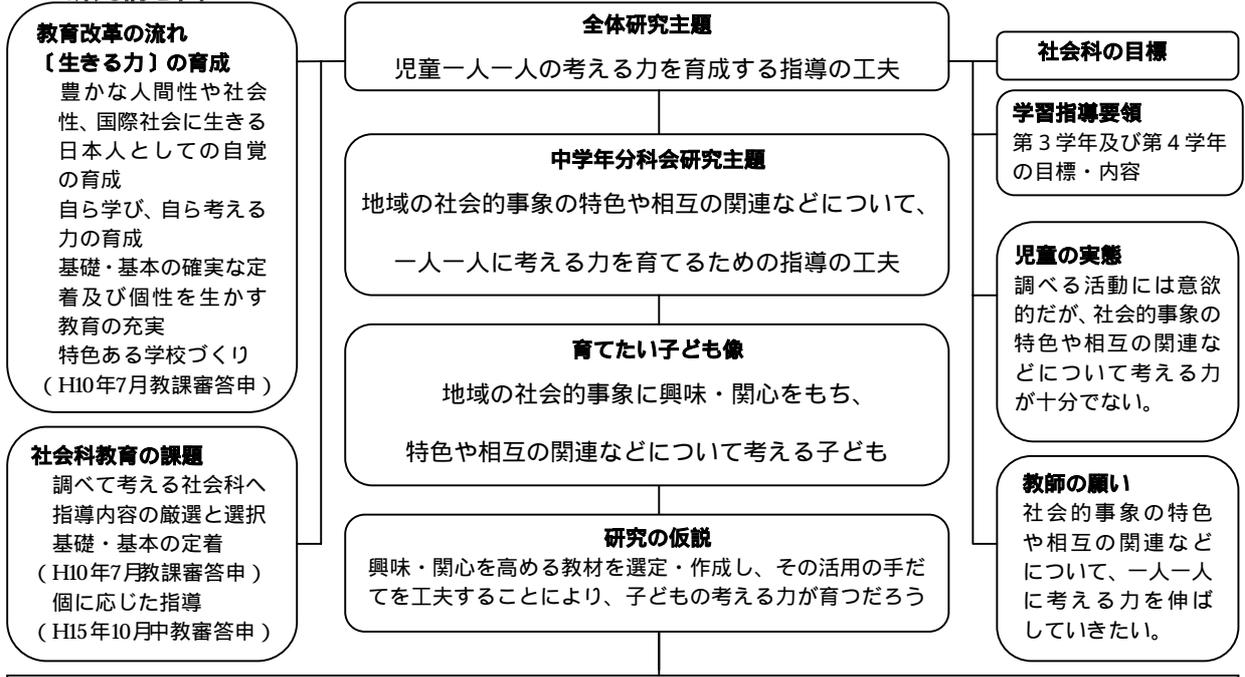
2 研究の仮説

児童が興味・関心をもち、地域の社会的事象の特色や相互の関連などについて十分に考えられるように、子どもにとって身近なところから「教材」を選定・作成し、考えさせていくことが必要と考えた。さらに、教材の活用の手だての工夫をすることにより、考える内容がより明確になり、子どもの考える力が深まるのではないかと考えた。

そこで、以下のような研究の仮説を設定した。

興味・関心を高める教材を選定・作成し、その活用の手だてを工夫することにより、
子どもの考える力が育つだろう。

3 研究構想図



4 研究の内容

中学年分科会では、主題に迫るために、(1)教材の選定・作成、(2)教材の活用の手だての工夫、(3)個に応じた指導の3つの視点から仮説の検証をすすめた。

(1)「ア 教材の選定・作成」

教材構造図の作成(7ページ参照)

その単元で何を考えさせたいかを明らかにするため、学習指導要領の目標と内容から単元における中心的な学習内容、調べる視点の分析を行い、教材を構造的に表した。考えさせるための「活用教材」と学習後の「考えが深まった子どもの姿」を示すことにより、指導計画作成の際にそれぞれの教材の効果を明確に位置づけすることができる考えた。

教材作りのための分析表の作成(7ページ参照)

教師が、学習内容にある社会的事象の特色や相互の関連などをより正確に、多面的に認識した上で教材を選定・作成できるように、学習内容に含まれる様々な社会的事象を分類、比較し、一覧表にまとめた「教材作りのための分析表」を作成した。それにより、様々な社会的事象の特色や相互の関連について相違点や共通点が明らかになり、教材を選定・作成する視点を明確にできると考えた。

教材作りのための分析表の作成手順は、以下の通りである。

縦軸に、地域の特色を活かした調べる対象を設定する。
横軸に、学習指導要領の内容(ア、イ等から)から、調べる視点を設定する。
それぞれの項目について、具体的な事実を明確にしていく。

小単元の「ねらい」に応じ、児童の実態をふまえて、分析表の項目にある事実から教材を選定・作成する。今回の実践事例「くらしのひろがり」では、東京都の地形と主な社会的事象について分析し、教材を選定した。選定の理由は以下の3点である。

- ・学習指導要領の内容から調べる視点として「土地の使い方」や「交通」「産業」を設定した。
- ・子どもにとって身近な地域にあるもので、ふだん見たり利用したりしているものを選んだ。
- ・その地で働く人の姿をとりあげ、地形からくらしの違いにまで思考が広がるものを選んだ。

教材活用シートの作成(8ページ参照)

小単元の学習活動の展開(つかむ、調べる、まとめる等)ごとに、教材選定の視点(「興味・関心を高める」、「疑問をもち、課題をもたせる」、「意欲的に調べ学習に取り組む」、「知識を効果的に身につける」)を明確にし、そのねらいに基づいて「考えさせたい内容」を設定した。これらと、「メイン教材」、「サブ教材」との関連を示すことにより、学習のねらいにより確実に焦点を合わせた教材の選定・作成が可能になると考えた。

*メイン教材・・・ねらいにせまるための中心となる教材。

*サブ教材・・・メイン教材を補完するもの。子どもの理解や習熟の状況に応じ、学習内容の確実な定着をはかるための補充教材や、理解をより深めたり、さらに進んだ内容について学習させるための発展教材など。

小単元の指導計画と具体的評価規準の作成(10ページ参照)

考えさせたい内容を明確にし、最適な教材を選定・作成するために、まず「単元の目標と評

価規準」と「単元全体の指導計画と教材」(9 ページ参照)を作成した。次に「小単元の指導計画と具体的評価規準」を作成した。その中で、具体的な学習内容、使用するすべての教材、さらに学習を通して「考えが深まった子どもの姿」を明示し、学習を通じた子どもの思考の流れを明らかにした。

(2) 「イ 教材の活用の手だての工夫」

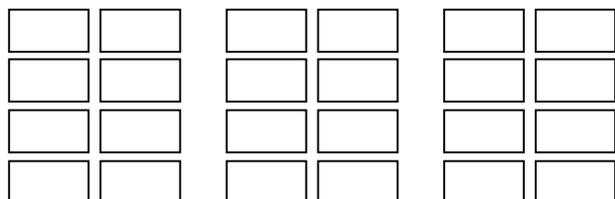
教材活用シートの活用(8 ページ参照)

教材活用シートでは、「考える力をはぐくむための活用の手だて」として、活動を具体的に示し、それによって期待できる活用の効果を示した。「教材 - 手だて - 効果」を図式化し、「教材で考える意欲を引き出し、深める」という授業での流れを検証することにより、より効果的な教材の活用の手だてを構成していくことができると考えた。

(3) 「ウ 個に応じた指導」

座席シートの活用

児童一人一人の学びの特性や個性に応じるためには、あらかじめ指導の見通しを整理しておくことが必要であると考えた。そこで、児童一人一人に対し、下に示したように「前時までのねらいに対する到達度」、「本時における指導の手だて」、「本時に期待する児童の姿」を明記した「座席シート」を作成した。「前時までのねらいに対する到達度」は、アンケート調査や前時までに書いたワークシートの記述、前時までの授業での様子から見取り、A B C のアルファベットと簡潔な文章で表記する。「本時における指導の手だて」は、「前時までのねらいに対する到達度」を受けて、本時で行う指導の手だてを、ヒントカード、助言、友達と話し合わせる等、具体的に記述する。「本時に期待する児童の姿」を具体的に想定しておくことで、指導の見通しが明確になると考えた。



ワークシートの活用と見取り

児童一人一人に自分なりの考えをもたせるために「考える具体的活動」の8つの項目をもとに、児童の思考に合わせたワークシートを作成した。

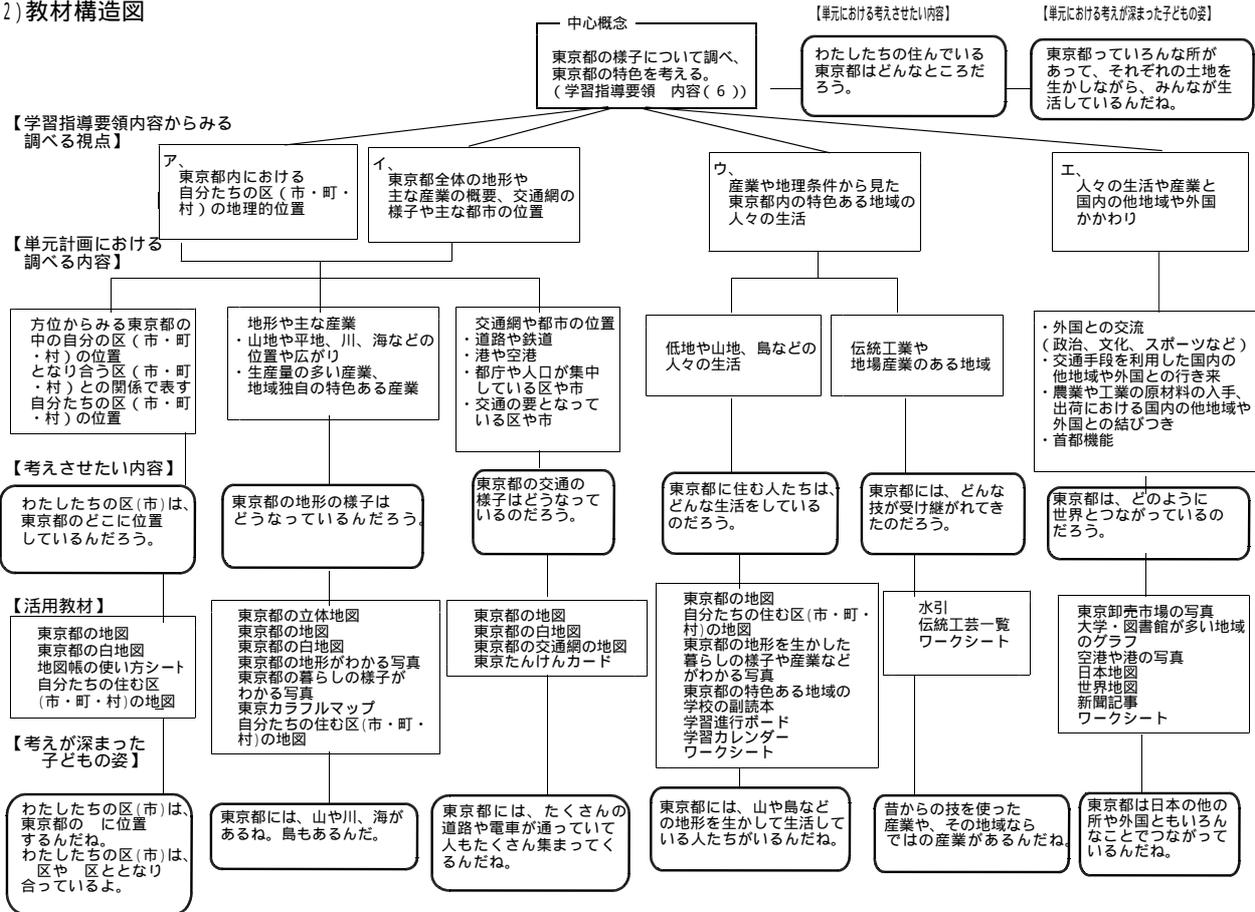
その中で、一人一人が写真の並べ替えをしたり、色分けをしたりする作業的な段階を設定し、その次に考えを文章で表現する段階を設定した。そのような思考の段階を設定することで一人一人の考える力を高められるのではないかと考えた。本時のワークシートの記述からねらいへの到達度を見取り、次時の座席シートの作成に活かす。そのことで児童一人一人に対する指導の見通しがもてるのではないかと考えた。授業後に回収したワークシートにコメントを書き込むことで、一人一人のこだわりや考えを大切に、意欲的に学習に取り組めるように留意した。

少人数グループでの話し合いの場の設定

児童一人一人の考える力を高めるためには、自分の考えをもつだけでなく、他の意見を聞き、自分の考えと比較し、検討したうえで最終的な考えを導き出すという活動が単元の中で不可欠であると考えた。そのための基礎として、自分の考えを話しやすく、友達の考えを聞きやすい環境を作ることが必要であると考え、少人数グループでの話し合いの場を設定した。

5 実践事例(第4学年)

- (1)単元名「くらしのひろがり」
- (2)教材構造図



(3)教材作りのための分析表 *縦軸・・・調べる対象 横軸・・・学習指導要領の内容

	地形	土地の使われ方	産業	交通	生活	その他
山地	土地が高くて山の多い所 海拔500m以上の高さの土地	森林が多くある。 ダムがある。	林業・製材業 農業 (花・・・シクラメン 野菜・・・わさび) 食品加工業 (こんにやく作り) 伝統工業(軍道紙) 観光業	自家用車を多く利用する。 ケーブルカーがある。 バスの本数が少ない。 山を切り開いたトンネルがある。	家は川に沿った道路の近くに建っている。 学校へはバス等で通学している。 行商の人が食べ物売りに来ることもある。 手に入りにくい物は隣の市や町に買い物に行くこともある。 人口が少ない。	登山・ハイキングができる。 キャンプ・つり・川遊びができる。 温泉がある。 都民の森がある。 夏でも気候が涼しい 東京の飲料水の水源の一つになっている。 国立公園がある。 滝・鍾乳洞がある。 (日原、大岳、養沢)
丘陵地 台地	土地が少し高くてやや高低のある所 海拔100m～500mの高さの土地 土地が少し高くて平らな所 海拔20m～100mの高さの土地	畑が多い。 住宅地が多い。 大きな工場がある。	農業(野菜作り) 多層織り 工業(自動車、電気、食品、飲料水など) 染小紋	都心に向かって高速道路・主要道路・鉄道がのびている。	都心に近いため、人口が増加している。 開発が進んでいる。	大きい公園がある。 遊園地がある。
低地	土地が低くて平らな所 海拔20m以下の高さの土地	商業地が多い。 工業地が多い。 埋立地がある。 住宅が密集している。 高層ビルが多い。 海のそばに大きな倉庫がある。	出版・印刷・新聞社が多い。 伝統工業(江戸切子、江戸和さお) 運輸業 漁業	道路網が発達している。(首都高速道路) 鉄道網が発達している。(鉄道、地下鉄、新幹線) 空港がある。 港がある。 (外国の物が入ってきたり、日本の物が外国に行ったりしている。)	人口密度が高い。 会社勤めをしている人が多い。 デパートや店など買い物をするとところが多い。	美術館や博物館が多くある。 東京ドームや武道館、国技館、国立競技場などがある。 海のそばは0メートル地帯がある。 武蔵野の台地と下町のさかいになっている山の手と呼ばれる地域がある。 都庁、皇居がある。 首都機能が集まっている。 (国会議事堂、首相官邸、最高裁判所、大使館、迎賓館など) 会社の本社が集まっている。 病院や大学などの公共施設が多い。 下町のお祭り
島(島しょ)	周りを海で囲まれている。	豊かな自然がある。	観光業 農業 (花・・・フェニックスパレニ、野菜) 漁業 黄八丈(八丈島)	船が定期的に就航している。 ヘリポートがある。	人口が少ない。 物価が高い。 生活が天候に左右されやすい。	海水浴、マリンスポーツ、つりができる。 島全体が国立公園になっている。 温泉がある。 貴重な動植物が多い。 冬は暖かい。 地熱発電 他の地域よりも台風が通過することが多い。

(5) 単元の目標と評価規準

目標	小単元「東京の地図探検」	小単元「東京の地図探検」
社会事象への関心・意欲・態度	大単元「くらしのひろがり」	自分の住む地域をもとに、東京都の主な特色をつかむ。
社会的な意思考・判断	東京都の地形や産業などの概要と人々の生活の様子について、その特色やよさを具体的に考える。人々の生活や産業と国内の他地域や外国との関わり、伝統的な工芸について調べ、地域への誇りと愛着をもつようにする。	東京都全体の様子に関心をもち、自分の住む区的位置や東京都の地形の様子、産業、交通の特色を意欲的に調べている。
観察・資料活用の技能・表現	東京都の地形やそこに住む人々の生活の様子を意欲的に調べている。	東京都全体の様子に関心をもち、自分の住む区的位置や東京都の地形の様子、産業、交通の特色を意欲的に調べている。
社会的事象についての知識・理解	東京都の地形、特色ある産業、交通の特色と、人々のくらしとの関係について考え、どのように他の地域と結びついているか考えている。	東京都の地形の様子や、そこに住む人々の生活の様子について、関連性を考えている。
	伝統工芸について、その技術を受け継いでいる人の工夫や努力を考え、伝統工芸のよさを考えている。	地図を写し取ったり、自分たちの区を地図の中で位置づけたりしている。
	地図や収集した各種の資料などを活用し、東京都の概要や特色を調べている。	東京都の広がりや土地の様子、交通の特色を写真や資料から読みとっている。
	東京都の特色ある地形・産業・交通や人々のくらしの様子を写真や資料からとらえ、伝統工業についてわかったことも取り入れた、東京紹介パンフレットを作成している。	東京都の中で自分が住む区の地理的位置を調べ、東京都の地形は高低差があることや主な都市をつなぐ交通網が発達していることを理解している。
	東京都の地形が、低地・台地・丘陵地・山地・丘陵地・山地・島に分けられることをつかみ、地形と場所にに応じた土地利用・産業の様子と交通の特色を理解している。	

(6) 単元全体の指導計画と教材 全31時間

ねらい	学習活動・内容	教材
東京の地図探検	東京で行ったことのある場所について発表し合い、自分の住んでいるところとの違いを話し合う。人々のくらしの様子が見える写真を見て、地形との関連性について予想をする。 本時	B区の地図 東京都の拡大地図 東京都の立体地図 ワークシート 地形が分かる写真(低地・山地・島) くらしが分かる写真(サラリーマン・地下鉄・林業・わさび栽培・魚船・フェニックスロベレニーの植え付け)
東京の地形、特色ある産業、交通の特色と、人々のくらしとの関係について考え、どのように他の地域と結びついているか考えている。	東京都の土地の様子は、どうなっているのか。E区と山地(F村)・低地(G区)・島(H島)をつなぐ交通について調べ、「東京たんけんカード」にまとめる。E区的位置や、東京都の地形の様子を調べ、「東京カラフルマップ」にまとめる。 東京都の特色について、気付いたことをワークシートにまとめる。	植物リトル「わさび」・「フェニックスロベレニー」 実物のわさび・フェニックスロベレニー 東京都の区市町村名がある地図 東京たんけんカード 東京都の白地図と立体地図 東京カラフルマップ 地形や主な産業の様子などが分かる写真と立体地図 ワークシート
東京の低地・台地・丘陵地・山地・島の地形と場所に合わせた土地利用・産業・交通、人々の生活の工夫やよさを理解する。	自分が住んでいる地域の特色を考える。 低地について地形・産業・交通、人々の生活の様子を調べる。 台地・丘陵地・山地・島について、自分が引越すとしたらその地域に住みたいかを考え、調べる計画を立てる。	東京都・B区の地図 低地の写真 埋め立て地の広がり 海面より低いところ・埋め立て地の写真 低地で働く人のお話
伝統工業について、その伝統を受け継いでいる人々の工夫や努力、思いを調べ、そのよさについて考える。	東京で住みたい地域について調べ、紹介パンフレットをつくらせよう。	学習進行ボード 学習カレンダー 紹介パンフレット 見つけよう!調べよう! 特色ある地域の小学校の副読本 特色ある地域のホームページ・アドレス集 黄八丈・江戸切子など。
伝統工業について、その伝統を受け継いでいる人々の工夫や努力、思いを調べ、そのよさについて考える。	東京都の伝統工芸について調べよう。	学習進行ボード 学習カレンダー ワークシート 伝統工芸一覧 東京卸売市場の写真
東京の人々の生活が他の地域や外国と関わっていることを知り、そのつながりを理解する。	東京都と他地域、外国とのつながりを調べよう。	日本地図・世界地図 大学・図書館が多い地域のグラフ 新聞記事 空港や港の写真

(1) 小単元の指導計画と具体的評価規準(5時間)
小単元のねらい・・・自分の住む地域をもとに、東京都の主な特色をつかむ。

小単元	ねらい	展開	学習活動・内容	予想される子どもの思考 考えが深まった子どもの姿	メイン教材 教材 活用の仕方	サブ教材 補充的な教材	評価規準()内は評価方法
<p>東京都の地形や他の都市を比べて交通について調べる。</p> <p>東京都の地形や他の都市を比べて交通について調べる。</p>	<p>つかむ</p>	<p>東京都の地形や他の都市を比べて交通について調べる。</p> <p>東京都の地形や他の都市を比べて交通について調べる。</p>	<p>遊園地に行ったよ。人が多かった。 電車でおばあちゃんの家に行った。畑があったよ。 川にキャンプに行ったことがある。</p> <p>・ビルがたくさんあるから、自分の住んでいるところと似ている。 ・こんなところがあるよ。 ・東京都にはいろいろな場所があるんだな。</p> <p>・木を切る仕事は山地での仕事かな。 ・海があるから漁師がいるのだろう。 ・ビルが多いということは、たくさん人が働いているのではないかな。 ・地下鉄がたくさん通っているから人が集まるのかな。 ・東京都にはいろいろな場所があるんだな。</p> <p>人々のくらしの様子が見て、地形との関連性について予想をする。 本時</p>	<p>予想される子どもの思考 考えが深まった子どもの姿</p> <p>・遊園地に行ったよ。人が多かった。 電車でおばあちゃんの家に行った。畑があったよ。 川にキャンプに行ったことがある。</p> <p>・ビルがたくさんあるから、自分の住んでいるところと似ている。 ・こんなところがあるよ。 ・東京都にはいろいろな場所があるんだな。</p> <p>・木を切る仕事は山地での仕事かな。 ・海があるから漁師がいるのだろう。 ・ビルが多いということは、たくさん人が働いているのではないかな。 ・地下鉄がたくさん通っているから人が集まるのかな。 ・東京都にはいろいろな場所があるんだな。</p> <p>人々のくらしの様子が見て、地形との関連性について予想をする。 本時</p>	<p>B 区の地図 自分の住んでいる場所を地図上に印を付け確認させる。 東京都の白地図 出かけた場所を付箋に書き せ、白地図に教師が貼る。</p> <p>地形が分かる写真 低地(ビル群) 山地(山々の斜面) 島(海) 特徴的な写真を提示して興味を引き出し、自分の住んでいるところと比べてどうかを考えさせる。</p> <p>地形とくらしが分かる写真(以下) 低地：サラリマン、地下鉄 島：漁船、フェニックス、ロペレニーの植え付け 植物リーフレスツツクわさび、「ワカヅカ・吹ルン」 興味を引き出すため、特徴的な写真の関連性をクイズ形式にして考えさせる。また、自分の場所とも比べさせる。</p> <p>ワークシート 考えの力を伸ばすため、写真の関連性について、自分の考えをまず書き、それをもとにして話し合いをし、その後の考えを書き込ませる。</p>	<p>東京都の地形や他の都市を比べて交通について調べる。</p> <p>東京都の地形や他の都市を比べて交通について調べる。</p>	<p>東京都の地形や他の都市を比べて交通について調べる。</p> <p>東京都の地形や他の都市を比べて交通について調べる。</p>
<p>東京都の地形や他の都市を比べて交通について調べる。</p> <p>東京都の地形や他の都市を比べて交通について調べる。</p>	<p>調べる・まとめる</p>	<p>東京都の地形や他の都市を比べて交通について調べる。</p> <p>東京都の地形や他の都市を比べて交通について調べる。</p>	<p>東京都の地形や他の都市を比べて交通について調べる。</p> <p>東京都の地形や他の都市を比べて交通について調べる。</p>	<p>予想される子どもの思考 考えが深まった子どもの姿</p> <p>・わたくしたちのE区からF村やG区、H島へはどっやうやっていくのでしょうか。 ・東京都は交通網がはりめぐらされているんだな。 ・E区は東京都の南東部に位置し、I区など5つの区に囲まれている。 ・東京都には23の区と市部と西多摩郡があり、島もある。 ・東京都の地形は山地、丘陵地、台地、低地、島に分けられるのだな。 ・東京都は埼玉県など4つの県に囲まれていて、東西・南北に長いのだな。 ・東京都にはいろいろな地形があるんだな。</p> <p>・鉄道は低地で発達していることが分かったよ。 ・自然を生かした仕事もたくさんあるね。</p> <p>・東京都にはいろいろなところがあるんだな。その場所とくらしには関係があるんだな。</p>	<p>東京都の地形や他の都市を比べて交通について調べる。</p> <p>東京都の地形や他の都市を比べて交通について調べる。</p>	<p>東京都の地形や他の都市を比べて交通について調べる。</p> <p>東京都の地形や他の都市を比べて交通について調べる。</p>	<p>東京都の地形や他の都市を比べて交通について調べる。</p> <p>東京都の地形や他の都市を比べて交通について調べる。</p>

(8)考察

ア 教材の選定・作成

教材作りのための分析表の作成

本単元「くらしのひろがり」では、東京都の地形と主な社会的事象について分析し、教材を選定する視点を明確にすることができた。また、教材に含まれる要素を分類したことで、提示する教材に対する児童の反応が予想しやすくなり「いろいろなくらしをしている人がいる」という考えをもたせやすかった。

教材活用シートの作成

教材活用シートの作成によって、様々にある教材の中から「メイン教材」(= その時間のねらいにせまるための中心となる教材) を明らかにすることができた。

イ 教材の活用の手だての工夫

教材活用シートの活用

考える力をはぐくむための活用の手だてを工夫することにより、期待できる活用の効果をあらかじめつかむことができた。それによって用意した教材を「考える力を育むため」に活用でき、「考えさせたい内容」へ子どもの思考を向かわせることに役立てられた。

ウ 個に応じた指導

座席シートの活用

授業中はワークシートへの記入の有無をチェックしたり、個別にアドバイスした内容をメモしたりして活用を図った。また、事前に座席シートへ前時までの学習の様子や本時で期待する学習の姿を具体的にまとめておくことで、個に応じた的確な指導を時間内に行うことができた。

A児の事例 (B区の小学校 : 児童数38名)	
A児の実態	知的好奇心が旺盛で、何事も前向きにとらえて学習を進めていける力をもっている。
前時の様子	東京にこんな場所があるなんて知らなかった。ちょっとだけ写真のところに住んでみたい。
本時の姿	話し合いの時間に、A児が全体の流れを作っていける発言ができるか。 本時では、グループ別の話し合いで司会を務め、話し合いをリードしていくことができた。また、ワークシートには「僕の知らない場所で、いろいろなものを育てているんだな」と思いました。」とまとめた。

ワークシート作成の工夫

ワークシートには、はじめにもった考えと、友達の意見を聞いての考えを随時書き記しておくことにより、子どもの思考の流れを後で振り返ることができた。

写真の置き換え	始めの考え	後の考え	始めの理由	付け足した理由
	写真	○ → ○	理由	
	写真	○ → ○		

ワークシートの活用と見取り

スモールステップをふんだワークシートを作成したことにより、一人一人が自分なりの考えをもつことができた。

<p>・自分の生活をもとに考える。</p> <p>「自分の住んでいる地域と比較する」視点を入れたことにより、自分の生活とのつながりや身近なものから考えをもつことができた。</p> <p>・地形とくらしのつながりを予想する。</p> <p>地形が分かる写真とくらしの様子が分かる写真をペアにするクイズ形式の学習にしたことで、より注意深く写真を読み取る姿が見られた。また、ワークシート上で写真进行操作する活動を取り入れ、考える時間を確保することで、一人一人が他の写真と比較して予想することができた。</p> <p>・なぜつながりがあるのか理由を考える。</p> <p>学習問題を「どの写真どうしがつながりのある写真なのか、理由を考えましょう」とする</p>
--

ことで、児童は写真の中や既習体験の中から、なぜつながりがあるのか根拠を探してワークシートに書いた。また、グループで話し合った結果や友達の考えを書き加えることで、考えが広がったり深まったりする姿が見られた。

ワークシートの見取りを活用し、個への手だてを行った児童の変容

C児の事例（D区の小学校：児童数26名）

C児の実態 社会的事象を知ろうとする意欲が乏しく、調べ活動も意欲的に取り組まず、どうまとめていったらいいか分からなかった。しかし、次のような個に応じた指導により、社会的事象について考えがもてるようになり、調べたいという意欲が高まった。

1時の座席シート

評価C D区の土地の特徴が分からない。違いを探す声かけ
東京都には、自分が住んでいるところと違うところがあることに気付く。

《1時の手だて》 写真の何を読み取るかが分かるように、自分が住んでいるところと比べて違いを見つけるよう声をかける。友達のいい意見「文京区にはない山がある」などを参考にして考えればいいと助言する。

《1時の様子》 地形写真に食い入るように見入り、自分の住んでいるところと比べて、写真から違いを読み取れた。

ワークシート 僕たちが住んでいるところに比べてすごく自然が多いと思った。

2時の座席シート

評価B 東京都への興味をもち、自分の住んでいるところの違いに気付いた。
時刻表とバスの写真を提示。関心をもって写真を操作する。つけた理由を考えられる。

《2時の手だて》 写真同士をつなげる理由が考えられるように、時刻表とバスの写真をヒントで与える。話し合いで友達の考えを取り入れるよう声をかけ、考えが変わってもいいシートを作る。

《2時の様子》 写真同士を結びつけ置き換えができた。理由を書くことを個別に伝えると書き始める。ヒント写真から根拠を見つけ、友達の考えを聞き悩みながら理由を考えた。

ワークシート 自分が住んでいるところと全然違うところがあってびっくりした。僕のいなかもこんなところ。僕のところはコンビニでご飯も買えるけど、写真の人たちの生活は大変そう。

3・4時の座席シート

評価B 東京都への興味を深め、生活の違いを具体的に考えた。
D区の位置や東京との地形について知り違いが考えられる。ワークシートと立体地図の提示。

《3・4時の手だて》 地形の特徴を考えるには、自分の住んでいるところと比べながら違いや同じところを見つけるよう声をかける。

《3・4時の様子》 D区がどこにあるかに気付き、区市町村の色分けができた。また地形の特徴について立体地図をさわりながら、自分の住んでいるところがどのあたりが考えられた。

ワークシート 区や市やすごくいっぱい、村と町は少ないから意味を知りたい。低地は土地が低いって分かった。自分の住んでいるところは低地と台地だけど、他にはいろんな土地がある。

5時の座席シート

評価B 東京都にはいろんな地形があることに気付いた。
交通網の特色をつかみ、行き方を調べ、興味を深める。地下鉄網の提示。興味の声かけ。

《5時の手だて》 地下鉄網を渡し、他地区への行き方を友達と相談しながら調べるよう声をかける。単元を振り返り興味をもったか聞く。

《5時の様子》 東京たんけんカードに交通の色分けができた。檜原村や中央区月島への行き方を地下鉄網などを見ながら、友達と競い合いながら、熱心に調べた。

ワークシート 僕はあまり電車に詳しくなかったけど、JRは東京のいろいろなところをつないでいるんだな。あと、東側にいっぱい電車があったことも分かった。実際に檜原村にいつてみたい。

少人数グループでの話し合いの場の設定

話しやすく聞きやすい環境づくりのため、少人数グループでの話し合いの場を設定した。40人近い学級においても全員の児童が発言できる機会が確保できた。また、自分なりの考えがもてている児童にとっては、友達に根拠を分かりやすく話す必要性から思考の深まりが見られた。結果、少人数での話し合いの場は、自分の考えに自信を深めたり考えを変えたりする根拠となった。

6 中学年分科会の研究のまとめ

研究仮説を「興味・関心を高める教材を選定・作成し、その活用の手だてを工夫することにより、児童の考える力が育つであろう」と設定し研究を進めた結果、研究構想図に掲げた研究の内容について、以下の成果と課題を得ることができた。

(1) 研究の成果

ア 教材の選定・作成

教材作りのための分析表や教材活用シートにより、地域の社会的事象の特色や相互の関連などについて考えさせる教材がより明確になった。また、教材に対する児童の反応を予想し活用の手だてを工夫することにも効果的であった。これらの教材が児童の興味・関心を高め、考える意欲を引き出し学習のねらいに基づいて意欲的に考える活動に結び付いた。

イ 教材の活用の手だての工夫

教材活用シートにより、考えさせたい内容、使用する教材、活用の手だて、期待できる活用の効果の4つの関係が明らかになり、教材の指導計画への位置付けがより具体的にとらえられるようになった。このことにより、児童にとってどのような学習場面でどのように考えればよいのかが明確になり、児童の思考の深まりにつながった。

ウ 個に応じた指導

座席シートやワークシートの見取りから、あらかじめ個に応じた指導の見通しを整理することができた。個々のこだわりや考えをとらえ、教材活用や助言に効果的に生かすことで、学びの特性や個性に応じた学習を展開することができた。また、少人数グループでの話し合いの場の設定も、自己の考えを振り返り、吟味・検討する場として有効であった。

(2) 研究の課題

ア 教材の選定・作成

学習のねらいに沿って教材を効果的に生かすためには、教師の教材観に加え、児童のより詳細な実態把握と、その教材が、既習学習や生活経験に基づく児童の思考の流れに沿ったものであるかどうかの検討をより一層進める必要がある。

イ 教材の活用の手だての工夫

教材活用シートを作成し、「教材 - 手だて - 効果」の図式化を図り、一つの単位を通して具体的な児童の姿で検証を試みた。さらに中学年の他単元で教材活用シートをもとに、これらの手だてが同様に有効なのかどうか検討を重ねることが今後の課題である。

ウ 個に応じた指導

発展・補充的教材など個に応じた教材については、有効な部分もあったが、十分に活用できるまでには至らなかった。教材の提示や教師の助言等の効果的な方法についてさらに研究を深めたい。児童一人一人の思考を十分に見取る評価計画をより明確にし、指導と評価の一体化を一層充実させることも今後の課題である。

(3) 今後の方向性

今後はより児童の見方・考え方、興味・関心などの実態に即して教材分析や学習指導・評価計画の作成を行う必要がある。児童の多様な思考の深まりに対応するために、個に応じた指導を今後どのように工夫していくかという視点から本研究を発展させていきたい。

高学年分科会 高学年分科会研究主題

一人一人の児童が社会的事象の意味を考えることができる指導の工夫

1 高学年分科会主題設定の理由

社会科の学習をしているときの高学年の児童は、教科書や資料集などに載っている写真・グラフ・文章などの資料、インタビュー、インターネットを活用するなどして情報を収集し、意欲的に取り組んでいる。しかし、注意深く見ていくと、情報を集めただけで理解した気持ちになっていたり、難しい内容等を丸写しただけで終わりにしていたりするなど、自分の考えをもつまでには至っていない児童が見られる。このような児童の実態から、高学年分科会では、何をどのようにして考えていけばよいのかが分かるような、より具体的な指導の工夫を、今まで以上にしていかなければならない必要性を感じた。

そこで、まず、児童の「考えている姿」について、「問題意識をもとに探究心や好奇心をもって、社会的事象の意味について予想している姿」、「社会的事象を比較している・関連づけている・総合してとらえている姿」、「調べたことを基に結論づけている姿」と考えた。さらに、このような児童像に迫るためには、一人一人の児童に対して、社会的事象の意味を考えることができるような指導の工夫をすることが必要であると考え、上記の研究主題を設定した。

2 研究仮説

児童が社会的事象の意味を考えるためには、問題意識をもつこと、社会的事象を十分認識すること、気付かなかった見方や考え方を学び合うことが重要である。そのための最も重要な手がかりは、「教材」であると考えた。すなわち、文章資料・写真・グラフや友達の意見、考えなどである。そこで、「教材」がもつ様々な特性を8つの視点から分析することで、より効果的に「考える力」を育てる教材を選び出すことができると考えた。

児童に社会的事象の意味を考えさせるには、教材の提示と同時に、興味や意欲を喚起したり、学習課題を把握させたりする発問・説明・助言といった指導が必要である。そこで、児童の思考に応じた指導計画を作成し、考える場面を明確にすれば、教師が個に応じた「補助的」・「発展的」な指導ができると考えた。

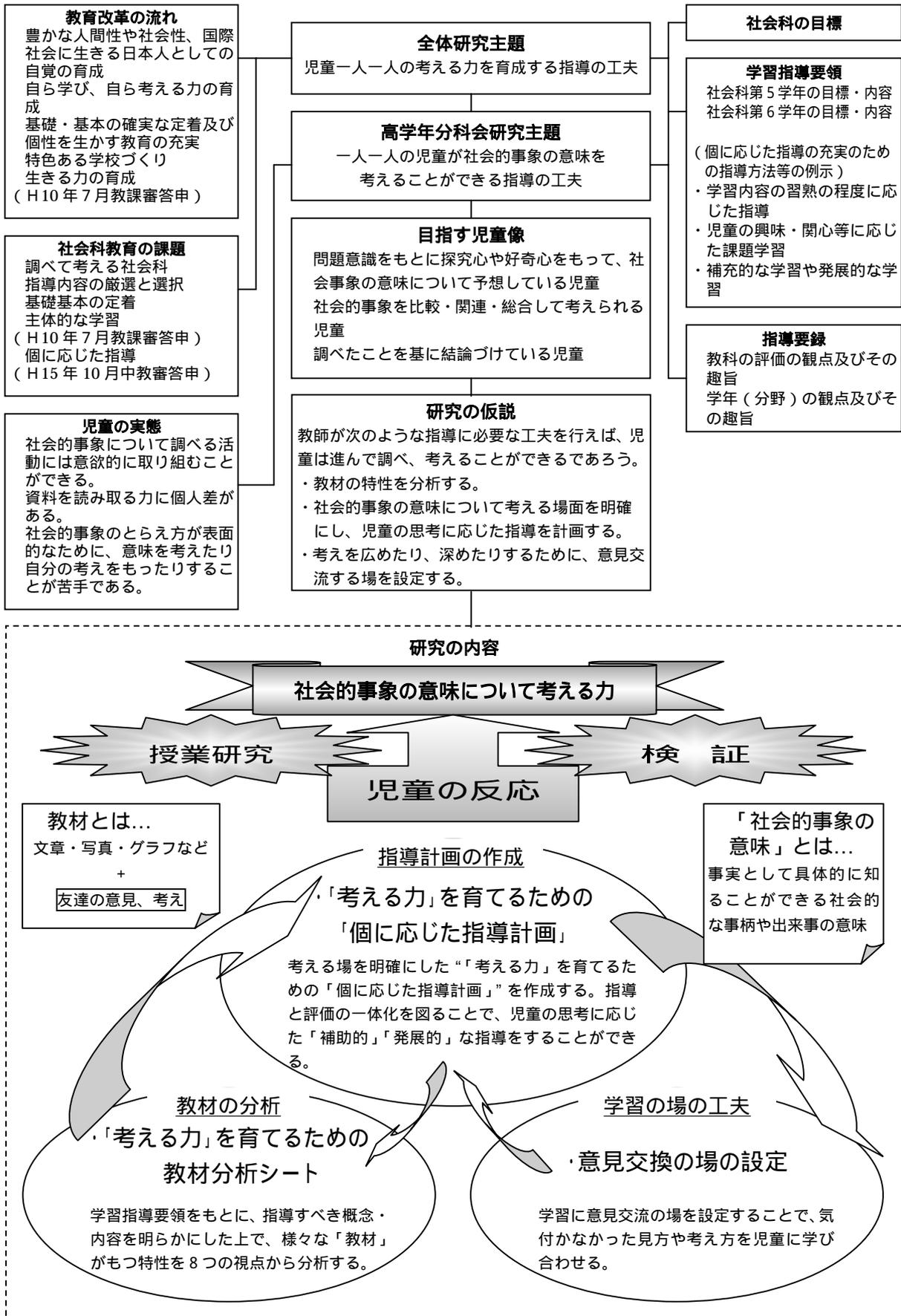
さらに、学習に意見交流の場をつくることで、児童が気付かなかった見方や考え方を学び合い、考えを広げたり深めたりすることができると思った。

研究仮説

教師が次のような指導に必要な工夫を行えば、児童は進んで調べ、考えることができるであろう。

- ・教材の特性を分析する。
- ・社会的事象の意味について考える場面を明確化し、児童の思考に応じた指導を計画する。
- ・考えを広めたり、深めたりするために、意見交流をする場を設定する。

3 研究構想図



4 研究の内容

(1) 「考える力」を育てるための教材分析シートの作成

児童が社会的事象の意味をよりよく考えることができるようにするために、教師は様々な教材を提示する。しかし教材過多や、教材同士の整合性のなさが児童の思考をかえって混乱させることも少なくない。そこで本分科会では、教材のもつ特性を分析し、教材活用により児童にどのような学習活動が期待できるかを明らかにしていくための教材分析シートの作成を考えた。

児童の思考の流れをたどったとき、考えを深める契機となった教材には、「教材と児童との距離」と「学習過程」という側面があると考えられた。「教材と児童との距離」の側面では、例えば家の近くの販売店のように「自己の生活」に直接結びつく教材であれば、より身近なものとして考える契機になりやすい。そして、工場や史跡など自分の住む「地域」にかかわりの深い教材や、働く「人」の様子が直接的に見学できる教材、歴史上の人物など、学年が進むに連れてほしいに広範囲なものになっていく。また、「学習過程」での児童の思考に目を向けると、導入段階では具体的で「イメージしやすい」教材や「既習概念を覆す」ような教材で、まず考えるきっかけをもつ。次に調べる段階で様々な「事実認識」をもとに考えを広げ、まとめの段階に向け「複数の立場で考え」たり「新たな学習へと発展」したりしながら考えを深めていく。このような児童の思考過程に沿った学習を計画するために、下記表中の8点を教材分析の視点として掲げた。

「考える力」を育てるための教材分析シート活用例「5年、自動車をつくる工場」

教材の特性	分 析 の 視 点								
	か生自 か活己 わとの りの	か往自 かむ分 わ地た り城ち との の	人 かと かの わ り	感 既 念 習 と 事 の 項 幅・ 既 存	分 感 加 覚 り 的 や な す き	正 事 し 実 い の 理 解	見 立 方 場 に ち よ がる い	応 学 が 習 り 活 動 の	
社会的 事象 ナ 「考える」学習活動に結びつけられる視点に○をつける。特に 重要なポイントは◎である。○や◎の位置が、その教材を 活用するかどうかを判断する根拠となる。例えば◎をつけた視 点を強調するために、活用の場面や方法を工夫していくことが できる。	活用 の 意 図	経実自 験体分 が製の あが生 るあ活 ると 比 較 で き る	感見地 が学城 園でと けまか るるか わ り が 薄 い	人 携 験の努 い生力 にまが ふ方わ れやか らる夫 れ や る	子イ 想ン具 をバな こくで えト の るが 半 あ 習 る 内 容と	イ視 メ覚 り 的 ジに し や す い	事地販 実名値 にな・ もど年 とが展 づ・ い 地 て 域 い・ る	見 福 見方考 解にえ がよる もっこ 場 ててと る具が なで るまる	新 新 結たも びなっ つ半こ く習と 活が 動で にき る
社会的事象	教 材								
I 人々のニーズに 応じる自動車を つくっている	1: 販売店の様子(写真)	◎	◎	◎				◎	
	2: アンケート調査(どんな自動車がほしいか)	◎	○		◎			◎	
	3: 自動車のパンフレット	○				◎			
II 自動車工場では 効率よく作業で きるよう様々な 工夫をしている	1: 工場の外観(写真)					◎		◎	
	2: 製造工程(写真、図)			◎		◎		◎	
	3: 組み立てライン(写真)					○	○	◎	
	4: 勤務時間(グラフ)			○	○		◎		
	5: 昔の工場の様子					○		◎	
	6: 組み立てライン(ビデオ)			◎	◎	◎		◎	
	7: 工場見学			◎	◎	◎	◎	◎	
	8: 指示書					○		◎	
	9: 鉄板石の輸入量(グラフ)						○	◎	
	10: 車づくりプロのインタビュー	○		◎				◎	
III 関連工場では、 様々な工夫をし て作業をしてい る	1: シートの組み立て・出荷			○		○		◎	
	2: 豊田市周辺の関連工場(地図)						○	◎	
	3: 小さな部品の工場の様子(写真)			○				◎	
	4: 部品の流れ(図)			○		○	○	◎	

分析シート中の ○ や ◎ の位置が、活用の場面を決定する根拠となる。

(2) 「考える力」を育てるための「個に応じた指導計画」の作成

学習活動の中で児童に考えさせたい場面と、その場面における児童の思考についての評価規準を明らかにし、それぞれに必要な手だて（指導・教材）を書き込むようにした指導計画を作成する。この“「考える力」を育てるための「個に応じた指導計画」”の作成に当たっては、学習活動の中で児童に考えさせたい場面(「」の部分)を明確にすることに力を入れた。

さらに、考えさせるときの手がかりとなる教材と指導を書き込んだ。

第5学年、自動車をつくる工業の実践で説明する。

<p>学習活動(は思考判断にかかわる学習活動)</p> <p>それぞれのグループで見つけた工夫や努力について、ポスターセッションをするための準備をする。</p> <p>ポスターセッションをする。</p> <p>「ポスターセッションからわかったことをワークシートにまとめる。」</p>	<p>教材(は思考判断にかかわる教材)</p> <p>教科書・資料集 前時までに集めた資料</p> <p>各自が作成したポスター</p>	<p>評価</p> <p>ウ</p> <p>エ</p>	<p>考えさせるための指導</p> <p>【発問】 ポスターセッションをして、わかったことをノートにまとめよう。</p>
--	---	-----------------------------	--

上記指導計画の右枠「考えさせるための指導」で学習活動を進めることができるのは、おおむね満足した児童(B)といえる。しかし、十分にねらいを達成できない児童(C)やねらいを超えた学習へ進むことができる児童(A)が現れる場合もある。そこで、児童の考えを具体的に予想し、それぞれの思考に応じた教材と指導を書き込むことにした。

評 価 予想される考え	思考に応じた教材と指導	
	教 材	指 導
<p>A 利用者のニーズに応じるために協力体制がとられていることに気付く。</p> <p>・それぞれの立場の人の協力があって、売れる自動車ができる。</p> <p>・みんなで力を合わせてユーザーのニーズに応じている。</p>	<p>自動車輸出量のグラフ -5</p> <p>図 -6</p>	<p>【発問】外国からの注文に応じるためにどんな工夫を現地工場の分布しているのでしょうか。</p>
<p>B それぞれの立場の人がかかわり合って自動車をつくっていることが分かる。</p> <p>・みんなの協力によって自動車ができるんだ。</p>	<p>ハイブリットカーや電気自動車の写真 -1,2</p>	<p>助言 これからの自動車にはどんなことが求められているか考えてもらおう。</p>
<p>C 部分的な事実のみ書いている。</p> <p>・企画の人がデザインを考えている。</p> <p>・組み立て工場では、ロボットを使っている。</p>	<p>製造過程の写真 -2,3</p>	<p>助言 それぞれのグループが見つけた工夫は何か、注目して聞いてみよう。</p>

教師がCと評価した児童には「補助的」な教材を提示したり、助言や説明をしたりする。「補助的」な教材とは、教材を提示した後にその読み取りが不十分であったり、考え違いをしている児童に、分かりやすく考えられるようにするものである。

Aと評価した児童には「発展的」な教材を提示する。「発展的」な教材とは、思考判断にかかわる教材を提示した後、自ら進んで考え、調べたりまとめたりしている児童にさらに考えを深めることができるようにするものである。必要に応じてBと判断した児童にも「補助的」・「発展的」な教材を与える。

以上のように指導計画の中に「思考に応じた教材と指導」の場面を記載していくことが、“「考える力」を育てるための「個に応じた指導計画」”の重要な点である。また、児童の考えについては、事前に詳しく予想することが何よりも大切である。そして、それに応じた教材を用意し、指導をすることで児童の「考える力」がより育つと考えた。(「個に応じた指導計画」の形式の詳細は、「自動車をつくる工業」の指導計画(P17)を参照)

(3) 話し合いの場の設定

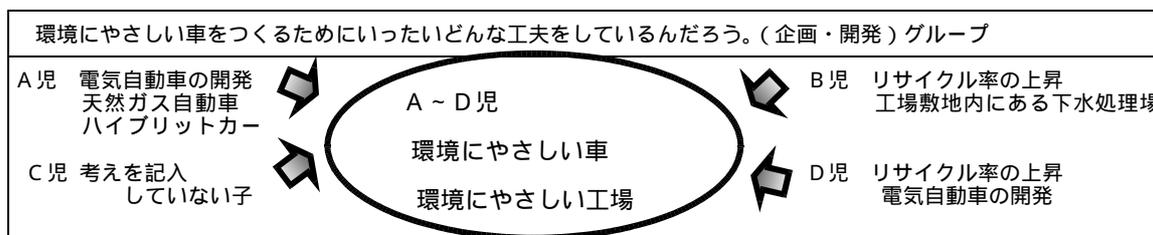
社会的事象の意味を考えるには、気付かなかった見方や考え方を学び合うことが重要である。そこで、児童の思考を補助したり、思考を広めたり深めたりする方法として、意見交流の場を授業の中に意図的に組み入れた。

意見交流には、以下のような有効な方法があると考えた。

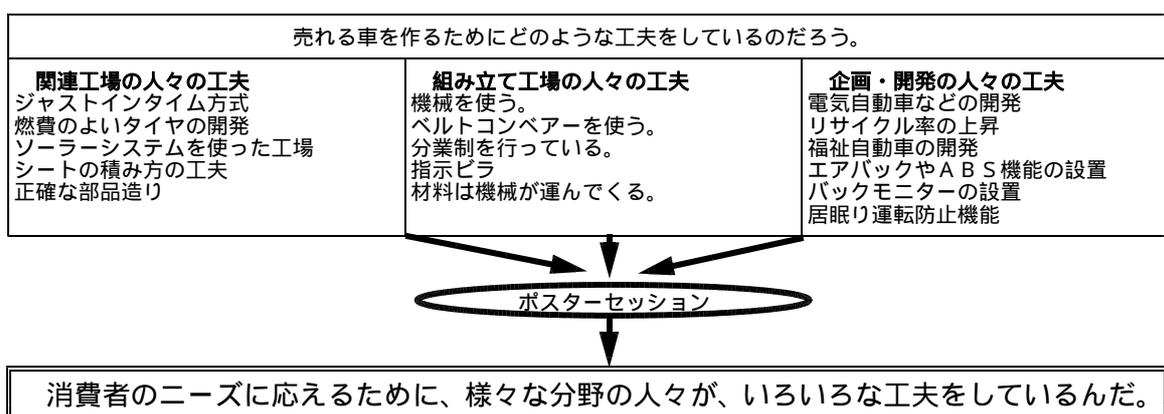
ア 発表し合う中で、自分の考え以外に「よい」「なるほど」などと思ったことを自分のノートやワークシートに色を変えて書かせるなどの方法

自動車の製造工程の様子から、 どんな工夫がされているか書きましょう。	調べたいことを書きましょう。
機械がたくさんある。ほとんど人がいない。 ベルトコンベアーがある。 友達の意見 変な紙がくっついてる。 あの材料はどこから来るんだろう。	工場にはどんな機械があるのか。 何台ぐらいあるのか。(簡単な疑問) 材料がどこから来ているのか。 (追究に適した問題)

イ 小グループで発表し合い、互いに学び合い、考えをまとめる方法



ウ 様々な立場や視点に分かれて追究させ、ディベートやパネルディスカッション、ポスターセッションといった活動を行い、社会的事象の意味を多面的にとらえさせようとする方法



様々な学習段階において、ア・イ・ウの話し合いの方法をいろいろと組み入れることをにより、児童が、より追究価値のある学習問題をもち、解決することができるのではないかと考えた。

教師は、児童に考えるきっかけを与えたり、集められた情報から、共通点や相違点を発見させたりすることによって、それらの意味を考えさせることができると考えた。さらに、様々な立場・視点に分かれて追究させ、そこで得た考えを交流させることで、児童の考えをより広めたり深めたりできると考えた。

5. 実践事例

(1) 小単元名 「世界に歩みだした日本」

(2) 小単元の目標

ア 当時の国内問題・国際関係に興味をもち、条約改正の努力や日清・日露戦争を調べ、日本の国際的な地位が向上し国力が高まったことが分かる。

イ その時代に生きた人の立場・気持ちになって様々な視点から考えて発表する。

(3) 「考える力」を育てるための教材分析シート

社会的要素 ナンバ	分析の視点	活用 の 意 図	分	株	の	提	意	点	事	見	立	広	学
			か	人	の	示	意	事	方	場	が	習	
			か 自 己 の 生 活 の わ り の	人 と の か わ り	の 生 活 と の 関 わり	提 示 の 事 象 ・ 既 習 の 事 象 と の 関 わり	意 義 的 な 事 象 と の 関 わり	点 と し て の 理 解	事 象 の 理 解	見 方 の ち が い	立 場 に よ る	広 が り	学 習 活 動 の 意 義
			経 験 的 な 事 象 と の 関 わり	人 の 生 活 と の 関 わり	の 生 活 と の 関 わり	提 示 の 事 象 ・ 既 習 の 事 象 と の 関 わり	意 義 的 な 事 象 と の 関 わり	点 と し て の 理 解	事 象 の 理 解	見 方 の ち が い	立 場 に よ る	広 が り	学 習 活 動 の 意 義
I	社会的要素 「考える」学習活動に結びつけられる視点に○をつける。特に重要なポイントは◎である。その教材を活用するかどうかを判断する材料となる。◎をつけた視点を強調するために、指示のし方を工夫することも考えられる。												
I	社会的要素 1: 不平等条約 2: 不平等条約 3: 不平等条約 4: 不平等条約 5: 不平等条約 6: 不平等条約												
II	社会的要素 1: 不平等条約 2: 不平等条約 3: 不平等条約 4: 不平等条約 5: 不平等条約 6: 不平等条約												
III	社会的要素 1: 不平等条約 2: 不平等条約 3: 不平等条約 4: 不平等条約 5: 不平等条約 6: 不平等条約												
IV	社会的要素 1: 不平等条約 2: 不平等条約 3: 不平等条約 4: 不平等条約 5: 不平等条約 6: 不平等条約												
V	社会的要素 1: 不平等条約 2: 不平等条約 3: 不平等条約 4: 不平等条約 5: 不平等条約 6: 不平等条約 7: 不平等条約 8: 不平等条約 9: 不平等条約 10: 不平等条約 11: 不平等条約												
VI	社会的要素 1: 不平等条約 2: 不平等条約 3: 不平等条約 4: 不平等条約 5: 不平等条約 6: 不平等条約 7: 不平等条約 8: 不平等条約 9: 不平等条約 10: 不平等条約 11: 不平等条約												
VII	社会的要素 1: 不平等条約 2: 不平等条約 3: 不平等条約 4: 不平等条約 5: 不平等条約 6: 不平等条約 7: 不平等条約 8: 不平等条約 9: 不平等条約 10: 不平等条約 11: 不平等条約												
VIII	社会的要素 1: 不平等条約 2: 不平等条約 3: 不平等条約 4: 不平等条約 5: 不平等条約 6: 不平等条約 7: 不平等条約 8: 不平等条約 9: 不平等条約 10: 不平等条約 11: 不平等条約												
IX	社会的要素 1: 不平等条約 2: 不平等条約 3: 不平等条約 4: 不平等条約 5: 不平等条約 6: 不平等条約 7: 不平等条約 8: 不平等条約 9: 不平等条約 10: 不平等条約 11: 不平等条約												

(4) 指導計画

	ねらい	学習活動 (は思考判断にかかわる学習活動)	教材 (は思考判断にかかわる教材)	評価
つ か む	幕末に結んだ不平等条約により日本が不利益を受けていたことに気付く。	ノルマントン号事件の絵を見て分かること、気づいたことを書く。 幕末に不平等条約を結んでいたことを調べる。 当時の人々の立場で不平等条約に対する考えをその人たちになっつもりで気持ちを想像して書く。	ノルマントン号事件<絵> - 1 江戸幕府が諸外国と結んだ条約<模式図> - 4 ワークシート	ア 
	約50年かけて条約改正が成功したことや日清・日露戦争について調べてみたいことをあげ学習問題を作ることができ	条約改正の経過を調べ、ワークシートにまとめる。 当時の諸外国が日本の条約改正の努力をどのようにとらえていたか考える。 日清・日露戦争の前後に改正されたことを調べ、条約改正の要因について調べる学習問題を作る。	年表・教科書 舞踏会の猿芝居 <絵> - 5 当時の日本 <写真> - 6 年表 人物写真 - 7・9 資料集(人物事典の部分)	ウ
条約が改正されたり、日清・日露戦争がおこったりした時代は、どのような時代だったのだろう。				
調 べ る	日清・日露戦争の概要が分かり、日本の国力が充実したことが分かる。	当時の世界地図や年表を見て、日本と諸外国との関係を調べる。 日清・日露戦争について調べる。 ○日清・日露戦争の原因・経過・結果から、日本の国際的地位の変化について、まとめる。 野口英世の功績について調べる。 日清・日露戦争の結果を比べ、条約改正が成功した理由を考え、ワークシートに書く。 当時の政治家の気持ちを考えワークシートに書く。	当時の世界地図 - 1 朝鮮半島をめぐる日本・清 ロシア <絵> - 2 教科書・資料集 戦争の結果をまとめた表 - 7 新1000円札のデザイン - 2 当時の世界地図 - 1 既習の資料(ワークシート)	イ ウ エ 
	朝鮮(韓国)の人々についてどのような影響を与えたか考える。	当時の朝鮮(韓国)や人々の生活について調べる。 当時の朝鮮(韓国)の人々の気持ちを考えワークシートに書く。	日本語で教育される子ども <写真> - 1 教科書・資料集 ハングルの本 - 8 ワークシート	イ エ
	国力が充実する一方で労働問題や社会問題が起こったことが分かる。	繊維工場で働く女工について調べる。 足尾鉍毒事件について調べる。 当時の国民の気持ちを考えワークシートに書く。 これまでの学習から、自分がまとめてみたい立場(政治家・朝鮮(韓国)の人々・国民)を選ぶ。	富岡製糸場 <写真> - 6 足尾銅山 <写真> - 3 足尾鉍毒概要<文章> - 4 ワークシート	イ
ま と め る	この時代の日本の歩みについて考えをもつことができる。	今までの学習を振り返る。 前時に決めた立場に立ってこの時代の日本の歩みについて考えワークシートに書く。 同じ立場を選んだもの同士でグループを作り、意見交換を行って、気持ちを考え吹き出しに書く。 次時の予告をする。	既習の資料 今まで書いたワークシート	イ
	友達と意見交流を行い考えを深めることができる。	前時の立場でグループを作り、当時の日本の歩みについて友達と再度、意見交流を行う。 パネルディスカッションの準備をする。	既存の資料 友達の考え <ワークシート>	ウ
	パネルディスカッションを行い、この時代の日本の歩みについて自分なりの考えをもつことができる。	パネルディスカッションを行う。 パネルディスカッションを振り返り、3つの立場の意見を踏まえて、この時代の日本の歩みについて自分なりの考えをもつ。 この時代は 　な時代だった。なぜなら…	ワークシート 前時で作った吹きだし・原稿	イ ウ 

「考える力」を育てるための「個に応じた指導計画」モデル図

「個に応じた指導計画」については、「つかむ」「調べる」「まとめる」の各過程より1ヶ所ずつ抜き出した。実践では「思考判断にかかわる学習活動」6カ所について全て下記と同様のものを作成した。

考えさせるための指導	評価 予想される考え	思考に応じた教材と指導	
		教材	指導
<p>1時間目</p> <p>【発問】不平等条約が結ばれていた当時の人々は、ノルマントン号事件を知ってどのようなことを考えたと思いますか。説明 自分の家族が乗っていて被害にあったとしたらどう思いますか。</p>	<p>B：条約の不平等さに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人が死んでいるのに船長が軽い罪で済むなんて許せない。 ・この事件は「治外法権」を認めていたからではないか。 ・江戸幕府はなぜこのような条約を結んだのか。 ・人々が苦しむような条約は変えてほしい。 <p>C：考えを記入していない。視点がずれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族が溺れていて助けてもらえないのは困る。 ・大変な事件が起きてしまった。 	<p>吹きだしのある絵 - 3</p>	<p>助言 なぜ、船長が裁かれなかったかもう1度整理しよう。</p>
<p>4時間目</p> <p>【発問】不平等条約が改正できた理由について今まで学んだことを生かして考えてみましょう。他にも気づいたことがあれば書きましょう。</p> <p>「A評価」につなげるために「他の立場で考える」ということを意識できるよう、繰り返し指導していく。</p>	<p>A：国力の充実、国際社会の評価の高まりに気付く。日英同盟にふれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本は世界から遅れた国と思われていたのに、一世紀たたないうちに急に進歩して世界と対等になった。 ・日本が世界に認められるほど強い国になった。イギリスはロシアと直接戦いたくなくなったから、不平等条約を改正するかわりに日本とロシアを戦わせようとした。 <p>B：国力充実、国際社会の評価の高まりに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・条約を結んだ時日本はまだ発展していないけれど、戦争に勝って発展していることを外国に分からせた。 ・日清・日露戦争に勝ったり、野口英世が世界に名前を知られたりするようになったから。 <p>C：考えを記入していない。視点がずれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本が努力したから。 ・江戸時代と違って政府がしっかりしていたから。 	<p>日本に火中の栗を捨わせる米英の絵 - 4</p>	<p>【発問】この絵はどのようなことを意味しているのかな。</p> <p>助言 他の立場（イギリスやロシア）からも、考えてみよう。</p> <p>助言 ワークシートを読み返して振り返ってみよう。</p>
<p>9時間目</p> <p>【発問】今まで学習してきたことやパネルディスカッションを通して考えたことを合わせて、この時代に日本が行ってきたことについて自分の考えをまとめてみよう。</p>	<p>A：近代国家になるために日本がとった政策について事実を正しくおさえ、業績を評価しながら様々な人の立場も考えに盛り込んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民が戦争で犠牲になったり、朝鮮（韓国）の人々に迷惑をかけたりましたが、条約改正は成功した ・政治家は国や国民のことを考え、条約改正にむけて努力した。 <p>B：自分が選んだ立場から、日本がとった政策について事実を正しく押さえて、その立場から業績を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政治家の努力で、やっと条約を改正できた。 ・国民は工場で働いたので、工業が発達し外国に認められた。 ・朝鮮（韓国）は植民地にされ民族のほこりを傷つけられた。 <p>C：考えを記入していない。</p>	<p>これまで活用した図・資料等</p>	<p>助言 パネルディスカッションでの三者の立場を考えてみよう。</p> <p>助言 パネルに図や資料が掲示してあるから、それを見ながら様々な立場の人の考えを盛り込んでごらん。</p> <p>助言 ワークシートを振り返ろう。</p>

- (5) 考察
- ア 「考える力」を育てる教材分析シート
分析シートの活用により、児童の実態に最も応じた導入資料を選択することができた。教師が教材の特性をつかんでいたため、ヒントカードなど児童の思考に応じた教材を作成でき、個に応じた指導ができた。
- イ 「考える力」を育てる「個に応じた指導計画」
ねらいに達していないと思われる児童や発展的な学習がふさわしいと予想される児童への対応を事前に準備することができ、個に応じた指導を行うことができた。
個に応じた指導をさらに充実させるために、全員に提示する教材はもとより「補助的」「発展的」な教材を活用するタイミングや発問・指示・説明・助言の仕方を今後も検討していきたい。
- ウ 意見交流
考えたことを小グループで発表し合う機会を設けた。それにより、考えを記入していない児童に、社会的事象からどのような社会的事象の意味を考えるのかを、友達の意見から学ばせることができた。また、自分の考えがもてた児童には、見方・考え方を広げさせることができた。
パネルディスカッションでは、異なる立場で考えさせたり、異なる考えをもつ友達と意見を交流させたりすることで、児童の考えを広げさせたり深めさせたりすることができた。しかし、複数の意見を聞くことで考えが練り上げられた児童がいた一方、それぞれの意見に引きずられ自分の考えが漠然としてしまった児童もいた。何のために話し合うのか、その目的を児童一人一人が正しく理解できるようにする必要があった。

児童の思考の変容 (児童が記入した文章の要約)

過程	時間	学習活動	A児	C児 (斜体は友達の発言を聞いてから書いたもの)	考察
つかむ		当時の人々の立場で、不平等条約に対する考えを書く。	「なぜ治外法権を認めたのか」 「船長の罪は軽すぎる」	「日本人だけ助けていない」「治外法権は困る」	話し合いの場を設定したことによりC児に治外法権にかかわる自分の考えをもたせることができた。



調べる		戦争の結果を比べ、条約改正が成功した理由を考える	「戦争で勝利したから」 「日本の科学や技術のよさを外国が認めたから」 「イギリスがロシアの勢いを押さえるため、日本に戦わせたから」	「日本はロシアと清に勝った」	日英同盟を結んだイギリスの意図も気づかせたく、ヒントカードを用意したが、小学生には難しい内容だった。
		当時の朝鮮(韓国)の人々の気持ちを考える。	「民族の誇りを傷つけないでほしい」 「支配される前の生活に戻れるようにしたい」 「朝鮮(韓国)の力をもっと強くしたい」	「日本語を学習するのは大変だろう」	C児にヒントカード(ハンブル)を渡したことにより思考判断でBと評価できる考えをもたせることができた。
		当時の国民の気持ちを考える。	「長時間働いているのに給料が少ない」 「輸出の中心が生糸だから大変なのだ。こういう生活をさせる政府を変えたい」 「生糸が国の経済を支えているのだから頑張ろう」	「休みも給料も少なくて生活が苦しい」	A児にヒントカード(品物別輸出割合のグラフ)を渡したことで、厳しい生活を送った女工の努力が国を支えたことに気づかせることができた。



まとめる		政治家・朝鮮(韓国)の人々・国民のうち1つを選び、この時代の日本の歩みについて考える。	(政治家) キーワード 少しやりすぎたこともあったが満足できた時代 「戦争に勝って領土が増え、賠償金を手に入れられた」 「女工などの労働者に厳しい生活をさせたり、朝鮮(韓国)の人の名前を変え、子どもに日本語を強制したから」 「日本海海戦に勝ち、フィンランドに希望をもたせたから」	(政治家) キーワード 条約が改正できてよかった時代 「日本が強いことを証明でき、不平等条約を改正できたから」	A児にはヒントカード(東郷ビル)を渡すことで、諸外国からの日本の評価が高まったことを多面的に考えさせることができた。 調べる段階でC児に自分の考えを毎時間もたせることができたので、政治家の立場を選ばせ、考えをもたせることができた。
		パネルディスカッションを振り返り3つの立場の意見を踏まえて、この時代の日本の歩みについて自分なりの考えをもつ。	「やりすぎた面もあるが、国全体にとってはよかった」 「諸政策の結果、戦争に勝ち、外国の評価が上がり不平等条約を改正できたから」 「戦争は避けられなかったのか」 「フィンランドは東郷平八郎をモデルにして『提督ビル』を作ってくれた」	「政治家が頑張っていて戦争に勝ったが、国民は家族を失い、朝鮮(韓国)の人も誇りを傷つけられた」	様々な友達の考えを聞くことにより、A児には戦争の悲惨さに気づかせることができた。 C児は視点が広がりすぎ、発表内容を羅列して終わってしまった。多面的に考えさせる助言を工夫する必要があった。

6 高学年分科会の研究のまとめ

研究仮説「教師が次のような指導に必要な工夫を行えば、児童は進んで調べ、考えることができるであろう。」

教材の特性を分析する。

社会的事象の意味について考える場面を明確化し、児童の思考に応じた指導を計画する。

考えを広めたり、深めたりするために、意見交流をする場を設定する。

を設定し、研究を進め、以下の成果と課題を得ることができた。

(1) 研究の成果

ア 「考える力」を育てるための教材分析シート

- ・考える学習活動を重視して8つの視点から教材を分析するシートを作成し、指導計画を作成することにより、児童が資料から何を読み取り、考えていけばいいのかを教師は常に意識し、児童に指導していくことができた。

- ・分析シートを基に、個に応じて提示する思考に応じた教材を活用することができた。児童は新たな視点を自分の考えに取り込み、より深く考えている姿が見られるようになった。

イ 「考える力」を育てるための「個に応じた指導計画」

- ・指導計画の中に考える場面を明確化し、さらに「個に応じた指導計画」を作成したことは、実際の授業の中で、児童の思考の状態に応じて必要な指導を行うことに有効であった。

- ・学習過程ごとに「補助的」・「発展的」な教材を活用できた。また、個に応じて教材の読み取りを指導することができた。児童は資料から得た情報をもとに、そこから何が言えるのかを読み取り、自分の考えをまとめることができた。

ウ 意見交流の場の設定

- ・さまざまな視点で学習を進めた児童との意見交流の場を設定したことで、児童は互いの考えを比べたり、取り込んだりして、視野を広げたり、考えを深めたりすることができた。

(2) 研究の課題

ア 児童の「考える力」についての実態把握

児童の「考える力」についての実態把握は、主に前単元までの学習状況やワークシートの記入などから行った。しかし、より児童の思考に応じて教材を活用していくためには、事前の児童の実態を一層明確に把握する必要がある。

イ 「考える力」を育てるための教材分析シート

教材分析シートを用いることで、児童の思考に応じて適切に教材を活用できるといった効果があった。しかし、シートの「分析の視点」については、今後実践を通してさらに検討をしていく必要がある。

(3) 今後の方向性

検証授業では、児童が社会的事象の意味について考えが深めることができるように、学習のまとめに様々な立場に立った児童が話し合う場を設定した。他の立場で考えた児童との意見交流では、自分の考えをより深める児童の姿が見られた。今後は「考えることのできる指導を工夫」するために、どんな活動や場面の設定が有効なのか、一層明らかにし、さらに本研究を発展させていきたい。

7 全体研究のまとめ

研究主題「児童一人一人の考える力を育成する指導の工夫」を設定し研究を進め、以下の成果と課題を得ることができた。

(1) 研究の成果

ア 教材の分析の工夫

考える学習活動を重視して教材を分析するシートを作成し、より児童の思考に合った教材を選定・作成することができた。このことにより、教師は常に教材に対する児童の反応を意識し、指導していくことができた。また、児童は発達段階に応じてより多面的に社会的事象を考えることができるようになった。中学年では、自分とのつながりや地域とのかかわりについて考える姿が見られるようになった。また、高学年では、新たな視点を自分の考えに取り込み、より深く考える姿が見られるようになった。

イ 個に応じた指導の工夫

個に応じた指導を行うために、中学年では座席シートやワークシートの工夫を行い、高学年では「個に応じた指導計画」を作成した。このことにより実際の授業では、児童の思考の状態に応じて必要な指導を行うことができた。中学年では、ワークシートへの朱書きや座席シートを活用することにより、児童が自分の考えをもつことができるようになった。高学年では、「補助的」・「発展的」な教材を活用することで、児童は資料から得た情報をもとに、そこから何が言えるのかを読み取り、自分の考えをまとめることができた。

さらに話し合いの場を設けることにより、児童一人一人が互いの考えを比べたり、取り込んだりして、視野を広げたり、考えを深めたりすることができた。

(2) 研究の課題

ア 教材の分析の工夫

より児童の思考に応じて教材を活用していくためには、児童の「考える力」についての実態把握を一層明確にする必要がある。また、選定した教材が児童の思考の流れに沿ったものであるかどうかの検討をさらに継続していくことが課題である。

イ 個に応じた指導の工夫

個に応じた教材を活用することで児童の考えを深めることができたが、他の単元でこれらの手だてが同様に有効なのかどうか検討を重ねる必要がある。さらに検証し、児童一人一人の考える力を育成するより効果的な指導のあり方を追究していくことが課題である。

(3) 今後の方向性

今後は児童の実態に即して教材分析や学習指導・評価計画の作成を行う必要があり、「児童の興味・関心に応じた課題学習」へと発展させていきたい。

平成16年度 教育研究員名簿（ 小学校社会科 ）

	地区	学 校 名	氏 名
中学年分科会	中 央	月島第二小学校	小川 優
	文 京	根津小学校	厚田真理子
	目 黒	不動小学校	上田 享志
	世田谷	駒繫小学校	山崎 宏則
	足 立	鹿浜第一小学校	関口 美和
	葛 飾	幸田小学校	十文字恭子
	八王子	加住小学校	西田 智教
	国分寺	第三小学校	高瀬隆太郎
	東大和	第一小学校	今井 透
	あきる野	多西小学校	小林 雄太
高学年分科会	千代田	九段小学校	村井 雄一
	大 田	東調布第一小学校	佐藤 公信
	杉 並	四宮小学校	渡瀬 雅江
	豊 島	文成小学校	木村 道人
	板 橋	成増ヶ丘小学校	土性 知法
	練 馬	早宮小学校	伊澤 正行
	江戸川	篠崎第五小学校	小池 幸恵
	江戸川	第六葛西小学校	安居 寛和
	八王子	由井第三小学校	間嶋 健
	調 布	富士見台小学校	深澤 美穂

世話人 副世話人

担当 東京都教職員研修センター 指導主事 佐藤 之保
指導主事 小島みつる

平成16年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成16年度 第21号
(東京都教育委員会主要刊行物)

平成17年1月24日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 鮮明堂印刷株式会社